

2013 年度 自己点検・評価報告書

青森明の星短期大学

■目次

●学科	
現代介護福祉学科.....	02
子ども学科.....	03
●教育支援部	
教務グループ.....	04
教育事業グループ.....	05
●キャリア・学生支援部	
就職支援グループ.....	06
学生活動支援グループ.....	07
●入試広報センター.....	08
●課	
企画総務課.....	09
教学就職課.....	10
入試広報課.....	11
●図書館.....	12
●明の星学園生涯学習センター.....	13
●青森明の星短期大学国際交流センター.....	14

年度	2013 年度	点検・評価した部署	現代介護福祉学科
----	---------	-----------	----------

本年度取り組んだ課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生指導体制の充実 ② 介護関連資格の取得奨励 ③ 事例報告書の作成、課題研究発表の充実 ④ 国家試験模擬問題の練習、分析 ⑤ フォローアップ研修 ⑥ 生涯学習センターとの連携事業
課題への取り組み結果と点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ① チューターを中心に学業不振、就職支援、遅刻や欠席の生活面に関する事等、保護者面談を交えてきめ細かく対応に当たった。 ② 介護福祉士、音楽療法士の資格だけではなく関連する「レクリエーションインストラクター」、「認定ピアヘルパー」、「情報処理士」、「福祉住環境コーディネーター」、「介護職員初任者研修」等の資格を取得することができた。 ③ 事例報告書と課題研究が 2 年後期に集中して行われるため、その点を見直し計画的に取り組めるようにした。その結果、発表準備がスムーズに行われ内容も充実してきた。 ④ 平成 27 年度以降、介護福祉士国家試験が義務付けられることから対応策準備のため導入した。課題傾向が明確になってきたので、次年度の取り組みに反映していく。 ⑤ 内容の明確化と質の充実を図った。 ⑥ 国家試験対策講座を新たに開設し好評を得た。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科統合をプラスに考え、各専攻の単位相互履修を説明し、将来 4 年生大学編入を視野に助言し、福祉専門職の意識を持ってもらう。 ・ 学生及び既卒者、外部者向けに各資格取得の対策講座を設け、本学は「介護の総合力がある短大」のイメージの確立を図る。 ・ 引き続き、学生の希望に沿った就職活動を支援していく。 ・ 教育内容の充実を図り、よりよい教育を目指す。
自己点検評価委員会からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域に対する貢献策と介護又は福祉分野における地域の課題解決に関する研究を推進してほしい。 ② 入試広報センターと連携し、介護の啓蒙活動をより活発にしてほしい。

年度	2013 年度	点検・評価した部署	子ども学科
----	---------	-----------	-------

本年度取り組んだ課題	<ul style="list-style-type: none"> ①各種サブ資格の精査及び見直しについて ②保育士・免許等の特例制度による講座・科目の開設について ③学生の指導体制について ④業務及び学生に関する情報の共有化について ⑤表現研究発表会、ゼミ発表会など学科行事の見直し ⑥実習指導内容及び時期等の見直し
課題への取り組み結果と点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ①教育カウンセラー補、音楽療育士の資格を廃止し、新たにリトミック指導資格の取得を可能にした。 ②「幼保連携型認定子ども園」への移行に伴う特例制度の実施について、本学科で開講できる科目及び開講時期等を検討した。 ③生活・就職指導、欠席、学習遅進、学業不振者に対する指名補講等の実施など教員間で連携し、きめ細かな支援を心がけた。 ④業務や学生に関する情報を共有することによって相互の不足分を補完し合う体制の構築を目指した。 ⑤反省会を実施し、課題を出し合い、改善策を話し合った。 ⑥実習担当者会議を開催し、内容及び時期等の見直しを行った。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ①特例制度による講座・科目の開設について ②幼保連携型認定子ども園保育要領（仮称）の学習会の実施 ③各種サブ資格の精査及び見直し ④特色ある教育活動の推進 ⑤各校務分掌（G）との緊密な連携の推進 ⑥現場実践への体験的参加としての保育ボランティアの継続 ⑦在学2年＋卒業後5年程度を視野に入れた人材養成（プログラム）の検討 ⑧実習規程の細分化及び実習指導内容の見直し・改善
自己点検評価委員会からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ①地域に対する貢献策と保育・教育又は福祉分野における地域の課題解決に関する研究を推進してほしい。 ②カリキュラム全体を視野に入れ、資格の見直しをしてほしい。

年度	2013 年度	点検・評価した部署	教育支援部 教務グループ
----	---------	-----------	--------------

本年度取り組んだ課題	<ul style="list-style-type: none"> ①授業数および試験日の確実な設定 ②補講の設定・確認および実施の周知 ③授業科目概要の様式変更 ④授業科目コードの設定 ⑤履修・資格登録の様式等の改善 ⑥授業評価アンケートの実施
課題への取り組み結果と点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ①規定の授業数の確保および試験日の確保と周知を行った。 ②実習に伴う休講、補いの必要な授業について把握・調整を行い授業担当者及び学生への周知を徹底した。 ③従来の授業科目概要を見直し、各回の授業についてのテーマおよび授業の到達目標・内容を明らかにする授業科目概要様式に変更した。 ④授業科目の構造化を図るために、科目の分類、年次配当による授業科目コードを設定した。 ⑤履修登録等の様式改善を試みた。 ⑥従来の授業評価アンケートを実施した。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ①期末試験を行う場合は、半期 15 回（通年 30 回など）の授業の他に、試験の時間を設定することを徹底する。 ②休講・補講についての混乱が生じないように、確実な確認および周知を行う。 ③教育支援グループと協同して授業改善等のFDを実施し、ひいては授業科目概要の改善につなげていきたい。 ④・能動的学修（アクティブ・ラーニング）の促進及びそのための教育内容と方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・サービス・ラーニング等の教室外学修プログラムの検討 ・教育課程の構造を分かりやすく明示する工夫 ⑤履修登録方法の改善 ⑥授業評価アンケートの内容・様式の検討
自己点検評価委員会からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ①アクティブ・ラーニングの具体化を進めてほしい。 ②学修ポートフォリオを学生生活動支援 G と連携して取り組んでほしい。

年度	2013 年度	点検・評価した部署	教育支援部 教育事業グループ
----	---------	-----------	----------------

本年度取り組んだ課題	<ul style="list-style-type: none"> ①2013 年度オープンキャンパスの企画と立案 ②中央高校との高大連携の企画と実施 ③AO・指定校の合格者に対する必修講座の検討 ④従来の課題レポートによる入学前教育との兼ね合いについて ⑤助成研究の公募状況等の周知と啓蒙 ⑥FD・SD 企画と実施
課題への取り組み結果と点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ①2013年度オープンキャンパスの企画と立案についてはAO入試を鑑み、実施の時間帯、内容等の改善をはかった。 ②中央高校との高大連携の企画について、中央高校との打合せを数回持ち、次年度からの実施を確定。協定を年度内に締結。 ③AO・指定校の合格者に対する必修講座の検討については、本学創立50周年事業の一環とする講演を必修講座に位置付け、実施した。 ④従来の課題レポートによる入学前教育との兼ね合いについては、課題の3回の実施、また次年度の学科統合による課題の中身および教員の分担の見直しにより実施。 ⑤助成研究の公募状況等の周知と啓蒙については、本学に適し、公募のリストを作成、周知を行い、募集の時期を学内掲示版による周知を行った。 ⑥FD・SD 企画と実施について、次年度の学科統合に向けてSD研修会を企画、実施に向けて現在準備進行中。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の実績を踏まえ、入試広報との分担、連携の見直しを進める。 ・高大連携事業の実施について、次年度の運営からは学科で講座の担当者、スケジュールを細かく検討し、実施にむけて調整。 ・助成研究の啓蒙については、申請の件数の拡大を課題とし、具体的な取り組みの実現をはかる。 ・AO入試の必修講座について、引き続き次年度の講座の検討。 ・FD・SD研修会については、FDの取り組みに力を入れ、次年度の企画と実施の充実を図る。
自己点検評価委員会からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ①助成研究の取り組みを具体化してほしい。 ②授業改善につながるFD、及び業務改善につながるSDの検討をお願いしたい。

年度	2013 年度	点検・評価した部署	キャリア学生支援部 就職支援グループ
----	---------	-----------	--------------------

本年度取り組んだ課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内定率100%を目指す。 2. 学科との連携 3. 進路相談の充実 4. 職場開拓 5. 進路ガイダンスの充実
課題への取り組み結果と点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. については、現代介護福祉学科は概ね達成できたが、子ども学科の一般企業希望者が7名が未定であり、両学科共に現時点では100%に至っていない。 2. については、学科及びチューターとの情報の共有など、概ね達成できたが、更に連携を密にする必要がある。 3. については、全職員が対応しており、相談件数もこれまで以上に多かったが、1部学生の中には呼びかけても相談に応じない学生もいる。早い時期からの進路相談が望まれる。 4. については、一般企業、特に県外（秋田県・岩手県）の職場開拓が必要である。 5. については、介護の学生の出席率は良いが、子ども学科の出席率が芳しくない。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学科及びチューターとの連携強化 2. 介護施設の職場開拓。 特に委託事業による学生の就職先の確保 3. 一般企業を希望する学生に対しての早期取り組み、筆記試験対策としての実力養成 4. 進路ガイダンスの出席率の向上及び学科ごとのガイダンス実施の検討
自己点検評価委員会からの評価	<p>①2年間を見通した、より計画的なガイダンスを実施してほしい。</p> <p>②三者（就職支援G・学科・教学就職課）の連携をより密にしてほしい。</p>

年度	2013 年度	点検・評価した部署	キャリア学生支援部 学生活動支援 G
----	---------	-----------	--------------------

本年度取り組んだ課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課外教育・活動、地域貢献事業 2. 学友会 3. 奨学金・学生アメニティー 4. 防災関連 5. 学生相談室
課題への取り組み結果と点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課外教育・活動、地域貢献事業 <ul style="list-style-type: none"> ①来学と同時に行ったロッカー案内は合理的であった。 ②課外教育（各種研修会） フレッシュマンゼミ内での研修会の内容にやや偏りがあった。 全学研修会での欠席が目立った。 ③課外活動・地域貢献事業 学生の清掃活動は前後期に分けて実施。参加は昨年度より改善。 今年度の活動回数：48回、活動人数：97人、内7割が音楽療法関連。（授業での活動を除く） 献血活動：今年度は日程が合わず実施しなかった。 ④似顔絵コンテスト 5名6作品の応募有。メッセージ性のある言葉が書かれていたものもあった。 2. 学友会 各種学友会活動支援：学生、執行委員、教員間での報告・連絡・相談、意思決定にやや問題があった。 3. 奨学金・学生アメニティー <ul style="list-style-type: none"> ①奨学金 日本学生支援機構奨学金：1種3名、2種5名で採用。定員内であったため、希望者全員採用。 あけのほし奨学金：別組織（あけのほし奨学金委員会）で審査予定。 聖母被昇天修道会奨学金：別組織で審査済。 ②学生アメニティー みんなの声に投稿有。関係部署へ連絡。 4. 防災関連 前期は火事、後期は地震・津波で実施。3号棟と1号棟との連携も上手くいった。 5. 学生相談室 現在まで、23名が50数回に渡り、進路・人間関係・学生生活等で相談。ほぼ全員が解決・改善した。現在は2名が継続で相談中。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課外教育・活動 <ul style="list-style-type: none"> ②課外教育（各種研修会） 研修内容について、事前に綿密な打ち合わせを行いたい。 全学研修会での欠席者に対し何らかの課題を出す。学科を通しインフォメーションを徹底する。 ③課外活動・地域貢献事業 清掃活動については業者の清掃内容の把握が必要。 ④似顔絵コンテスト 募集要項に一文を加え、あくまで「似顔絵」であることを強調する。 2. 学友会 一般学生を含み、役割分担・組織図を明確にし、責任の所在を明らかにさせたい。 3. 奨学金・学生アメニティー <ul style="list-style-type: none"> ②学生アメニティー 学生へのアンケートの実施。（卒業週間を予定） 4. 防災関連 消火器の使い方、地震体験等、実施内容について検討する必要がある。 5. 学生相談室 学生へのアンケートの実施。（卒業週間を予定）
自己点検評価委員会からの評価	<ol style="list-style-type: none"> ①学友会活動をより活発化するための方策を検討してほしい。 ②学修ポートフォリオを教務Gと連携して取り組んでほしい。

年度	2013 年度	点検・評価した部署	入試広報センター
----	---------	-----------	----------

本年度取り組んだ課題	<p>①入試制度の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに AO 入試を取り入れ、制度全体を見直した。 <p>②広報活動の重点化と多元化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科改組によるデメリット（時期の遅れ）、メリット ・高校訪問の強化（データによる傾向の把握） ・TVCM の導入 ・オープンキャンパスの内容充実 <p>③短大 HP の充実</p>
課題への取り組み結果と点検・評価	<p>①AO による入学予定者は、13 名とほぼ当初予測通りだったが、全体の受験者は、学科改組による出遅れもあり、伸びていない。特に介護学科の減少が大きい。</p> <p>②高校訪問を最も重要な広報活動と位置づけ、規模、回数を増やして実施したが、地域によっては浸透が不十分な例も見られた。OC、入学前課題など内容を工夫して実施したが、更なる改善が必要と思われる。</p> <p>③お知らせ、ブログなどの間が空かないように更新するように努めた。必要な情報がどこにあるのか分かりやすいインターフェイスにしていく必要がある。</p>
次年度への課題	<p>①AO が 2 年目となり、AO での志願者数の倍増を図るとともに他の入試も含めて、時期・内容を精査する。</p> <p>②離職者を除いた入学者数 100 名を目標として、常に数的目標を意識しながら、データを十分に活用しながら、全学的な体制での高校訪問を実施する。また、訪問回毎に、訪問の目的や伝える内容を訪問者が共有する。</p> <p>③受験生、及びステークホルダーが利用しやすい HP 作りを目指し、HP 全般の見直しを行う。</p> <p>④学科の教育内容についても、入試広報の立場から積極的に改善提案をする。</p>
自己点検評価委員会からの評価	<p>①データに基づいた分析と情報発信を心掛け、それぞれの時期に適った臨機応変な広報活動をお願いしたい。</p> <p>②より受験生目線に立ったオープンキャンパスを企画してほしい。</p>

年度	2013 年度	点検・評価した部署	企画総務課
本年度取り組んだ課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 新規業務に伴う課内業務の円滑な引き継ぎ（他課との連携） ② 会計業務のチェック体制の強化 ③ 福利厚生の情報提供の充実 ④ 情報機器、視聴覚機器等取扱いのマスター及び教室の定例チェック 		
課題への取り組み結果と点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 新規業務において、また他課が担当した業務は「調査・統計」、「学納金収納」、「機器備品等管理・修繕」、「国際交流センター業務」、「情報公開」であるが、大部分が時期的なものであったこともあり、特に支障はなかった。 ② 会計業務全般について、課内で役割分担の変更と他課の職員が加わり、複数の担当者が配置されたことによって、ダブルチェックができ、チェック体制の強化に繋がった。また、一人職制が解消できたと言える。 ③ 福利厚生の情報提供については、学内 LAN や刊行物の配付等で周知徹底を図った結果、前年度より向上した。 ④ 各教室の定例チェックを教学就職課と連携して定期的に行った。 		
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 今年の事務室アンケート結果から、企画総務課の立場から学内全体を見る目を養うとともに、学生を対象とする業務の他課との支援強化など互いの積極的な関与が課題である。 ② 会計システム稼働による、さらなる業務の安定と正確に加えスピードアップを目指した業務の簡略化とともにチェック体制を強化する。 ③ 福利厚生業務として、私学共済や青森県教育厚生会の動向などの情報を引き続き周知徹底を図り、さらにミニ説明会開催などに発展させていく。 ④ 視聴覚機器等の取扱いや操作方法などのマスターと引き続き教室の定例チェックを行っていくことにより、学生の教育環境を整備する。 		
自己点検評価委員会からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ①教育環境の整備（衛生面含む）の実施にあたっては、立案してその実施状況を発信しながら改善を図ってほしい。 ②総務的な業務の範囲、対象を拡大してほしい。 		

年度	2013 年度	点検・評価した部署	教学就職課
----	---------	-----------	-------

本年度取り組んだ課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 申請（保育士・幼免）手続きの作成作業の工夫 2. 委託学生の指導・技専校との調整（新規業務） 3. 就職における学科との横断的対応
課題への取り組み結果と点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 従来、保育士・幼免の申請作業は90分で同時に行っていたが、時間内では作業を終えることが難しくなってきたので、資格毎に作業を分割した。その結果時間内で書類作成が終えることが出来た。それにより学生の負担の軽減及び学生からの提出後の事務作業がスムーズに行えた。さらなる点検は必要であるが、時間をかけることの是非を検討していきたい。 2. 委託事業社会人関連業務と他業務との時間の調整に苦慮した。外部とのやりとりではあるものの、次年度中の事務作業上の要望を今年度中に行い、本業務及び他業務の支障にならないよう努めている。新規の業務であったが概ね、対応できたと思う。 3. 就職における通常の連携の他に介護学科でのガイダンスを行った。課として更に学科・就職支援グループと連携を強化していきたい。ガイダンスは事務職の視点で、各種データを用いて行った。介護学科では全員が就職活動に至っており、ある程度の成果は上げられたのではないと思われる。人数的に多い子ども学科でどの程度の成果が上げられるかは未知数であるが、教員によるもの、事務職員によるものまたは外部の方のと、視点が違う形でアプローチすることによって、成果は期待できることから、各組織と連携を深めていきたい。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 提出物等の期限に関してルーズな学生が増えてきているので改善を図りたい。方法は検討中であるが、学生本人または、事務作業上も必要なことであるので、徹底していきたい。 2. 今年度、課題としたことの再点検・再評価を実施する。単年度では結果の有無が難しいところがあるので、引き続き課題とし、対応していく。 3. 課と学生支援グループとの関わりを再構築し積極的に関わっていくよう検討することを次年度の課題としたい
自己点検評価委員会からの評価	<ol style="list-style-type: none"> ①非常勤講師を含めた学内全体の動きを把握し、正確で迅速な履修登録や成績管理にむけて改善してほしい。 ②就職ガイダンスや就職開拓を就職支援グループと連携しつつ、主体的に行ってほしい。

年度	2013年度	点検・評価した部署	入試広報課
----	--------	-----------	-------

本年度取り組んだ課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生募集活動 学科改組に伴い、新学科向けの学校案内、入試要項を作成した。 また、説明会、高校訪問、受験雑誌等を通して、新学科の入試情報、及びAO入試の導入の周知に努めた。 2. 広報活動 HPの情報更新をできるだけ密にするとともに、広報誌「キャンパスニュース」、「フロレテ・フロレス」及び学園広報誌「あけのほし」の発行により短大情報の周知に努めた。 また、地域への広報として、浪打銀座の夏祭り、及びねぶたへの積極的な参加を促した。 3. 入試業務改善 AO入試の導入に伴い、入試要項・面接実施要領を再編した。 受験環境の改善を図り、使用教室等の見直しを行った。
課題への取り組み結果と点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパスへの動員は、1・2年生の参加が増えたこともあり全体数は増加したが、学科改組による募集活動の遅れ（受験雑誌、学校案内、募集要項）や高校の生徒数減少ならびに高校生の就職状況好転（特に介護施設）もあり、定員確保には至らなかった。 2. 広報誌の作成やホームページへの情報掲載については、オープンキャンパスへの申込状況に見られるように一定の成果が出ている。 ねぶたなどの地域イベントへの参加者数は減少傾向にある。 3. オープンキャンパスで使っている会場を試験場として使用したため、受験しやすい環境を提供できた。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受験生はもちろん、高校1・2年生から継続して本学を志望するように学生祭への招待などオープンキャンパス以外の参加行事を計画する。 また、相談会など本学ブースにアクセスした生徒には、継続して短大からの情報（行事や次の相談会について）を発信し、本学への興味をつなげていく。 2. HP等に掲載する情報については、小まめな更新を心掛ける。学内情報をHP情報としてアップする仕組みを構築する。 3. 出願の締切日についてさらに検討するとともに、入試実施について、効率的な実施方法・日程を検討する。
自己点検評価委員会からの評価	<ol style="list-style-type: none"> ①データを広報対策により一層活用してほしい。 ②HP等での情報公開をより能動的・積極的に展開してほしい。

年度	2013 年度	点検・評価した部署	図書館
----	---------	-----------	-----

本年度取り組んだ課題	<p>1. 図書館運営－図書館利用の促進・広報事業</p> <p>①図書館ガイダンス ②絵本の読み聞かせ講座 ③図書館であそぼ！ ④読書感想文コンクール ⑤公共図書館との連携</p> <p>2. 図書資料の管理</p> <p>①蔵書点検、除架、除籍等 ②図書資料の整備</p> <p>3. 学生の図書延滞の対策</p>
課題への取り組み結果と点検・評価	<p>1. ①新入生にとって図書館利用を促す取り組みとして評価が得られた。 ②講義とワークショップ形式で行ったことで、参加者の絵本への理解が深まり、実習での実践に参考になるとの声が多く聞かれた。 ③参加者（園児、保護者）からは好評を得た。このような外部利用者への企画は図書館の広報活動として継続して取り組みたい。 ④応募数が少ないことが課題となった。 ⑤公共図書館との相互協力の件数は低い、利用者の満足度・利便性は評価された。</p> <p>2. ①除籍作業は捗らなかった。 ②図書資料は学科の図書構成の点検を実施し、不足分野の整備を行った。</p> <p>3. 掲示や教員の協力を得て返却の通知を行ったが、改善されなかった。</p>
次年度への課題	<p>1. ①ガイダンス内に利用案内と図書検索を行うには、時間が足りなかった。また、新入生だけではなく、在学生を対象とした図書検索等の講座開催についても検討したい。 ②③④企画・運営（募集方法、講座の開催時期、内容、講師等）について引き続き検討する。</p> <p>2. ①効率化を図る対策の必要。 ②図書館と学科との連携の強化。</p> <p>3. 学生への返却通知方法の工夫を考える。</p>
自己点検評価委員会からの評価	<p>①図書館便りのような図書館情報の積極的発信を実現してほしい。 ②図書館主催の講座、読書感想文コンクールなどの企画について、活性化を図ってほしい。</p>

年度	2013 年度	点検・評価した部署	生涯学習センター
----	---------	-----------	----------

本年度取り組んだ課題	<p>1 公開講座の充実と拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の増加を目指す ・短大との連携で新規講座を立ち上げる <p>2 免許更新講習等に関わるセンター事務の効率化</p>
課題への取り組み結果と点検・評価	<p>1 講座</p> <p>①委託講座（教育カウンセリング養成講座）について 受講者は例年並みの人数を確保できたが、既受講者が多かった。講座の主旨や内容についての理解が浸透し、今後も一定の人数が見込まれる。また、免許更新講習の対象となっていることから、夏の講座は定員を上回った。</p> <p>②短大主催講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術講習、免許更新講習 受講者は予想した数をおおむね確保できた。次年度も受講者増が見込まれる。 ・出前講座は申し込みが微増している。 <p>③センター講座（公開講座）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度並みに実施できたが、子ども英語は後期希望者が足りず休講となった。 <p>2 センター事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務担当者の連携が図られ、課題解決がスムーズであった。 ・介護技術講習、免許更新講習に関わる事務システムが整理され、センターの役割が明確になった。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むつ市教育委員会主催の市民大学学生の受け入れることにより他市とのつながりをもつことができた。
次年度への課題	<p>1 各種講座の参加者を増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許更新講習は定員増を図る。介護技術講習は次年度が最終年度となることから、介護福祉専攻との連携の基、実施回数を増やす。 <p>2 講座のPR方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや玄関前掲示では限界がある。受講料を伴う場合はPR方法が限定される。 ・地域、関係機関への周知と徹底を図るため、関係機関への訪問の際PRすることも考えられる。 <p>3 短大との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉専攻との連携・・・介護福祉士初任者研修の実施 ・保育専攻との連携・・・おもちゃインストラクター、食育指導士の募集、受け入れ ・大学履修証明制度の検討 <p>4 教室の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月28日（月）短大の授業日であるが、教育カウンセリング研修講座は講師確保のため、月日が特定されている。ご理解いただきたい。
自己点検評価委員会からの評価	<p>①センター講座全体について、質、量ともに活性化を図ってほしい。</p> <p>②行政との連携を図り、広報を活性化してほしい。</p>

年度	2013 年度	点検・評価した部署	国際交流センター
----	---------	-----------	----------

本年度取り組んだ課題	<p>①派遣留学制度の周知及び派遣留学生の募集</p> <p>②短期留学制度の周知と参加希望者の募集</p> <p>(③④⑤⑥は、青森・長春教育学術文化交流協会事務局としての主な業務)</p> <p>③青森・長春交流協会役員会・年次総会・懇親会(7月)の準備及び開催</p> <p>④青森・長春交流協会広報紙(第13号)の編集および発行(10月～12月)</p> <p>⑤青森・長春交流協会主催「大連・長春友好訪問団」の参加者募集・事務手続きおよびツアーの実施(6月～10月)</p> <p>⑥留学生奨学生を選抜・奨学金受給(3月～6月)</p>
課題への取り組み結果と点検・評価	<p>①前期に全学生に対し口頭および掲示で派遣留学制度の説明を行い、参加者の募集を行った。今年度の希望者は出なかったが学生1名が2014年度の参加に応募予定。</p> <p>②オーストラリア・ケアンズの短期留学の募集を行ったところ、2週間コースに2名、4週間コースに1名の希望者があり、2014年3月に留学する予定である。</p> <p>③総会の企画・運営について業務を滞りなく行った。</p> <p>④広報紙の企画・運営について予定通り実施することができた。</p> <p>⑤ツアー説明会、実施に関する諸手続き等を滞りなく行い、無事にツアーを行うことができた。</p> <p>⑥留学生奨学生所属大学への説明・面接・支給等を行った。</p>
次年度への課題	<p>①派遣留学の説明を入学時・履修説明時・「中国語Ⅰ」履修時に説明を行い、学生の興味・関心を高めたい。また、「中国語Ⅱ」の履修者が少数の場合は、日中友好協会や中国語の会等での中国語のスキルアップを目指すなど学生の語学への取り組みを促す。</p> <p>②帰国後にヒアリングを行い、必要に応じて留学先・留学内容及び時期等の見直しを行いたい。ホームステイや語学学校、生活一般についての「Q&A集」を作成したい。</p> <p>③④については、今年度同様滞りなく実施したい。</p> <p>⑤ツアーの企画および参加者募集を行う。</p> <p>⑥奨学制度の見直しを行う。滞りなく事務手続きを行う。</p>
自己点検評価委員会からの評価	<p>①他校留学生との交流の場を検討してほしい。</p>